

『幸せの輪を広げよう』

福島県

富岡町少年剣道団

中学3年生

堀川佳乃

私の通う道場では、稽古の時間に「稽古よりも大事な事」と言って先生がよく話をしてくれる。沢山して頂いた話の中でも、入団したての頃に聴いた「三つの幸せ」という話を、私は特によく覚えている。三つの幸せとは、「してもらい幸せ・出来る幸せ・してあげる幸せ」をいう。最上級生の中学三年生になった今、この言葉の本当の大切さを道場に通った時間を振り返りながら感じている。

「してもらい幸せ」は、入団する前から始まった。指導者の父、剣道経験者の母、そして先に始めた兄、道場に行き出したのはまだ三才になる前だ。もちろん、剣道をする訳ではない。稽古をしている二時間、道場の隣にある畳の上でひたすら遊んでいた。遊び飽きると他のお母さんに抱っこしてもらったり、買い物に連れて行ってもらったり。稽古が終われば大きいお兄さんやお姉さんが相手をしてくれた。土曜日には必ずアメをくれる先生もいたりして、私は剣道が好きになる前に道場に行くことが大好きになった。

そんな見習い期間を四年過ごし、私は小学一年生で本格的に剣道を始めた。一緒に始めた同級生と、今度は先輩となった上級生。自分も仲間になれた事が嬉しくもあつたし誇らしくもあつた。

「おぼんです。」

と大きな声で道場に入る、靴を揃える、はいという返事をする事から始まり、左座右起、構え、素振り、少しずつ剣道らしいことを習っていった。剣道具を着け出した頃は面ひもがきつく結べない、そんな時は先に着けた先輩が走ってきて結んでくれた。切り返しができるようになったら次は差し面、出小手、返し胴と、稽古内容は少しずつ難しくなっていったが、先生や先輩が基立ちになって何回も繰り返し稽古をするうちに出来る技が増え、試合でも勝てるようになっていった。「してもらい幸せ」が、いつの間にか「出来る幸せ」に代わっていた。

そうして八年が過ぎた。沢山の大会で優勝し、公式戦でも結果を出すことができたのは、数えきれない程の「してもらった幸せ」の上に積み重ねられた「出来るようになった幸せ」のお陰だと思う。試合で勝てない日が続いたり稽古がうまくいかなかったりした時は迷ったり怒ったり落ち込んだりした。でもそれは、自分勝手な気持ちになっていたからだ、と今は考える。「こんなに頑張っているのに」とか「相手が悪い」とか、何でも言い訳をして自分は間違っていないと言い張ってきた。いつの間にかしてもらった事や出来るようになった事への感謝という一番大事な事を、勝ち負けに気を取られて忘れてしまっていたのだ。

今度は私が三つ目の「してあげる幸せ」を実践する番だと思う。今までしてもらった多くの事を、後輩にしてあげる時が来たのだ。してもらった事全部が出来る訳ではないが自分ができる事を一つでも多く後輩にしてあげようと、日々の稽古の中で思っている。それは大きな声で挨拶をする事や、誰よりも大きな気合いを出して稽古する事だ。剣道具の片付けの手伝いや稽古の後の雑巾がけも率先してやるように心掛けている。私が先輩に教えてもらったことが少しでも伝わればいいな、と願っている。そんな気持ちが伝わって小さい子たちが出来るようになれば、そのお手伝いが出来た自分自身が誰よりも幸せな気持ちになる、そして、私が感じたその幸せを、次は後輩が他の誰かにしてあげる事でまたその人が幸せを感じる事が出来るようになると思う。

先生が教えて下さった「三つの幸せ」とは、自分一人だけが幸せになるのではなく、池に投げた小石が波紋を作るようにどんどん広がって沢山の人を幸せにしていく、そういうことだと思っている。この気持ちをいつも忘れず、この小さな幸せの輪を剣道が続けながら少しずつでも広げていきたい、と思っている。